

## 2023年度 カリキュラム・マップ【別科日本文化専修過程】

### ディプロマ・ポリシー

DP1: 異文化理解を深めグローバルに活動する能力

DP2: 日本事情に精通し、社会の変化に対応する能力

DP3: 現代社会における諸問題への対処に必要な情報処理能力

分野系列	科目名	科目の目的・目標	アセスメント方法	科目に関連づくディプロマ・ポリシー		
				◎:最もよく身に付けることができる能力 ○:よく身に付けることができる能力 △:身に付けることができる能力		
				DP1	DP2	DP3
<日本文化・社会科目>	日本文化論特殊講義ⅠA	日本の文学に関する基礎を学ぶ。	発表内容や授業態度15%、テストの素点85%で評価します。	○	◎	○
<日本文化・社会科目>	日本文化論特殊講義ⅠB	日本の文学に関する基礎を学ぶ。	発表内容や授業態度15%、テストの素点85%で評価します。	○	◎	○
<日本文化・社会科目>	日本文化論特殊講義ⅡA	日本の政治に関する基礎を学ぶ。	①授業への取り組み30%、②期末試験70% ※理解度の確認のために小レポートを講義中に書いてもらうことがあります。	○	◎	○
<日本文化・社会科目>	日本文化論特殊講義ⅡB	日本の政治に関する基礎を学ぶ。	①授業への取り組み30%、②期末試験70% ※理解度の確認のために小レポートを講義中に書いてもらうことがあります。	○	◎	○
<日本文化・社会科目>	日本文化論特殊講義ⅢA	日本の食文化に関する基礎を学ぶ。	課題によるレポート試験(60%)、小テスト(20%)、態度(20%)、出席日数を考慮する場合があります。	○	◎	○
<日本文化・社会科目>	日本文化論特殊講義ⅢB	日本の食文化に関する基礎を学ぶ。	課題によるレポート試験(60%)、小テスト(20%)、態度(20%)、出席日数を考慮する場合があります。	○	◎	○
<日本文化・社会科目>	日本文化論特殊講義ⅣA	日本の文化に関する基礎を学ぶ。	講義(80%)、グループワーク(20%)	○	◎	○
<日本文化・社会科目>	日本文化論特殊講義ⅣB	日本の文化に関する基礎を学ぶ。	講義(80%)、グループワーク(20%)	○	◎	○
<日本文化・社会科目>	日本文化論特殊講義ⅤA	日本の経済に関する基礎を学ぶ。	評価方法:試験70%、授業参加度(課題提出等)30% フィードバックの方法:Webclassのメールを通して学生一人一人に伝えます。	○	◎	○
<日本文化・社会科目>	日本文化論特殊講義ⅤB	日本の経済に関する基礎を学ぶ。	評価方法:試験70%、授業参加度(課題提出等)30% フィードバックの方法:Webclassのメールを通して学生一人一人に伝えます。	○	◎	○
<日本文化・社会科目>	日本文化ゼミナールA	日本の文化思想に関する基礎を学ぶ。	毎回の小課題(50%)・総括レポート(30%)・授業参加度(20%)	○	◎	○

## 2023年度 カリキュラム・マップ【別科日本文化専修過程】

### ディプロマ・ポリシー

DP1: 異文化理解を深めグローバルに活動する能力

DP2: 日本事情に精通し、社会の変化に対応する能力

DP3: 現代社会における諸問題への対処に必要な情報処理能力

分野系列	科目名	科目の目的・目標	アセスメント方法	科目に関連づくディプロマ・ポリシー		
				◎:最もよく身に付けることができる能力 ○:よく身に付けることができる能力 △:身に付けることができる能力		
				DP1	DP2	DP3
<日本文化・社会科目>	日本文化ゼミナールB	日本の文化思想に関する基礎を学ぶ。	毎回の小課題（50％）・総括レポート（30％）・授業参加度（20％）	○	◎	○
<日本語に関する演習>	日本語演習ⅠA	日本語の文法に関する理解を深め、運用力を向上させる。	① 評価方法：平常点（課題への取り組み等）及び筆記試験 ② 割合：平常点30％（課題への取り組み等）、筆記試験70％ 評価基準：全ての課題にきちんと取り組んでいることを最低基準とし、試験に対する理解度に応じて評価する。課題や試験についてのフィードバックは、授業中に個別に口頭で行う。	○	△	◎
<日本語に関する演習>	日本語演習ⅠB	日本語の文法に関する理解を深め、運用力を向上させる。	① 評価方法：平常点（課題への取り組み等）及び筆記試験 ② 割合：平常点30％（課題への取り組み等）、筆記試験70％ 評価基準：全ての課題にきちんと取り組んでいることを最低基準とし、試験に対する理解度に応じて評価する。課題や試験についてのフィードバックは、授業中に個別に口頭で行う。	○	△	◎
<日本語に関する演習>	日本語演習ⅡA	日本語の聴解力を向上させる。	学習態度（30％）試験（70％）	○	△	◎
<日本語に関する演習>	日本語演習ⅡB	日本語の聴解力を向上させる。	学習態度（30％）試験（70％）	○	△	◎
<日本語に関する演習>	日本語演習ⅢA	日本語の読解力を向上させる。	試験：60％（定期試験、小テスト、レポートなどで評価）。 授業貢献度：40％（授業態度、質疑への積極性、双方向授業時の積極性、課題などの主体的取り組みで評価）。  評価基準：学則に従って100点満点で60点以上が合格。	○	△	◎
<日本語に関する演習>	日本語演習ⅢB	日本語の読解力を向上させる。	試験：60％（定期試験、小テスト、レポートなどで評価）。 授業貢献度：40％（授業態度、質疑への積極性、双方向授業時の積極性、課題などの主体的取り組みで評価）。  評価基準：学則に従って100点満点で60点以上が合格。	○	△	◎

## 2023年度 カリキュラム・マップ【別科日本文化専修過程】

### ディプロマ・ポリシー

DP1: 異文化理解を深めグローバルに活動する能力

DP2: 日本事情に精通し、社会の変化に対応する能力

DP3: 現代社会における諸問題への対処に必要な情報処理能力

分野系列	科目名	科目の目的・目標	アセスメント方法	科目に関連づくディプロマ・ポリシー		
				◎:最もよく身に付けることができる能力 ○:よく身に付けることができる能力 △:身に付けることができる能力		
				DP1	DP2	DP3
<日本語に関する演習>	日本語演習IVA	日本語の文章作成力を向上させる。	(1) 評価方法: 平常点 (課題への取り組み等) および筆記試験 (2) 割合: 平常点50% (課題への取り組み等)、筆記試験50% (3) 評価基準: 全ての課題にきちんと取り組んでいることを最低基準とし、試験に対する理解度に応じて評価する。課題や小テストについてのフィードバックは、授業中に個別に口頭で行う。	○	△	◎
<日本語に関する演習>	日本語演習IVB	日本語の文章作成力を向上させる。	(1) 評価方法: 平常点 (課題への取り組み等) および筆記試験 (2) 割合: 平常点50% (課題への取り組み等)、筆記試験50% (3) 評価基準: 全ての課題にきちんと取り組んでいることを最低基準とし、試験に対する理解度に応じて評価する。課題や小テストについてのフィードバックは、授業中に個別に口頭で行う。	○	△	◎
<日本語に関する演習>	日本語演習VA	日本語の口頭表現力を向上させる。	試験 (70%)、提出課題・小テストの成績・授業態度など (30%) ※学則にしたがい、授業時数 (13回) の3分の1以上欠席した場合は、評価の対象となりません。	○	△	◎
<日本語に関する演習>	日本語演習VB	日本語の口頭表現力を向上させる。	試験 (70%)、提出課題・小テストの成績・授業態度など (30%) ※学則にしたがい、授業時数 (13回) の3分の1以上欠席した場合は、評価の対象となりません。	○	△	◎
<職業に関する科目>	コンピュータ演習A	コンピュータの基礎的操作方法を学び、操作技術を習得する。	授業における受講態度、参加度、提出課題の内容等を点数化して評価全体の60%を形成的評価点とする。また、逐次実技試験を実施し、評価全体の40%を総括的評価点とする。形成的評価点と総括的評価点を合算して評価基準に照らし合わせ評価する。	△	△	◎
<職業に関する科目>	コンピュータ演習B	コンピュータの基礎的操作方法を学び、操作技術を習得する。	授業における受講態度、参加度、提出課題の内容等を点数化して評価全体の60%を形成的評価点とする。また、逐次実技試験を実施し、評価全体の40%を総括的評価点とする。形成的評価点と総括的評価点を合算して評価基準に照らし合わせ評価する。	△	△	◎
<研修科目>	日本文化研究A	日本文化の伝統と歴史の変遷を学ぶ。	授業参加度 (30%) 試験・レポート (70%)	○	◎	○
<研修科目>	日本文化研究B	日本文化の伝統と歴史の変遷を学ぶ。	授業参加度 (30%) 試験・レポート (70%)	○	◎	○

## 2023年度 カリキュラム・マップ【別科日本語専修過程】

### ディプロマ・ポリシー

- DP1: 日本の高等教育を受けるために必要な日本語運用能力
- DP2: 異文化を理解し、共感する能力
- DP3: 日本事情の概要をある程度把握し、適切な行動ができる能力
- DP4: 高等教育機関において主体的に学習を進める能力

分野系列	科目名	科目の目的・目標	アセスメント方法	科目に関連づくディプロマ・ポリシー			
				DP1	DP2	DP3	DP4
<日本語科目>	日本語ⅠA	日本語の文法の理解を深め、運用力を養成する。	① 評価方法：平常点（課題への取り組み等）及び筆記試験 ② 割合：平常点30%（課題への取り組み等）、筆記試験70% ③ 評価基準：全ての課題にきちんと取り組んでいることを最低基準とし、試験に対する理解度に応じて評価する。課題や試験についてのフィードバックは、授業中に個別に口頭で行う。	◎	△	○	○
<日本語科目>	日本語ⅠB	日本語の文法の理解を深め、運用力を養成する。	① 評価方法：平常点（課題への取り組み等）及び筆記試験 ② 割合：平常点30%（課題への取り組み等）、筆記試験70% ③ 評価基準：全ての課題にきちんと取り組んでいることを最低基準とし、試験に対する理解度に応じて評価する。課題や試験についてのフィードバックは、授業中に個別に口頭で行う。	◎	△	○	○
<日本語科目>	日本語ⅠC	日本語の文法の理解を深め、運用力を養成する。	① 評価方法：平常点（課題への取り組み）および小テスト ② 割合：平常点30%（課題への取り組み等）、小テスト70% ③ 評価基準：全ての課題にきちんと取り組んでいることを最低基準とし、試験に対する理解度に応じて評価する。課題や小テストについてのフィードバックは、授業中に個別に口頭で行う。	◎	△	○	○
<日本語科目>	日本語ⅠD	日本語の文法の理解を深め、運用力を養成する。	① 評価方法：平常点（課題への取り組み）および小テスト ② 割合：平常点30%（課題への取り組み等）、小テスト70% ③ 評価基準：全ての課題にきちんと取り組んでいることを最低基準とし、試験に対する理解度に応じて評価する。課題や小テストについてのフィードバックは、授業中に個別に口頭で行う。	◎	△	○	○
<日本語科目>	日本語ⅠE	日本語の文法の理解を総合的に深める。	① 評価方法：平常点（課題への取り組み）および小テスト ② 割合：平常点30%（課題への取り組み等）、小テスト70% ③ 評価基準：全ての課題にきちんと取り組んでいることを最低基準とし、試験に対する理解度に応じて評価する。課題や小テストについてのフィードバックは、授業中に個別に口頭で行う。	◎	△	○	○
<日本語科目>	日本語ⅠF	日本語の文法の理解を総合的に深める。	① 評価方法：平常点（課題への取り組み）および小テスト ② 割合：平常点30%（課題への取り組み等）、小テスト70% ③ 評価基準：全ての課題にきちんと取り組んでいることを最低基準とし、試験に対する理解度に応じて評価する。課題や小テストについてのフィードバックは、授業中に個別に口頭で行う。	◎	△	○	○

◎:最もよく身に付けることができる能力  
○:よく身に付けることができる能力  
△:身に付けることができる能力

## 2023年度 カリキュラム・マップ【別科日本語専修過程】

### ディプロマ・ポリシー

- DP1: 日本の高等教育を受けるために必要な日本語運用能力
- DP2: 異文化を理解し、共感する能力
- DP3: 日本事情の概要をある程度把握し、適切な行動ができる能力
- DP4: 高等教育機関において主体的に学習を進める能力

分野系列	科目名	科目の目的・目標	アセスメント方法	科目に関連づくディプロマ・ポリシー			
				DP1	DP2	DP3	DP4
<日本語科目>	日本語ⅡA	日本語の文章作成力を養成する。	学習態度（30％）・毎回の作文（70％）	◎	△	○	○
<日本語科目>	日本語ⅡB	日本語の文章作成力を養成する。	学習態度（30％）・毎回の作文（70％）	◎	△	○	○
<日本語科目>	日本語ⅡC	日本語の文章作成力を養成し、発表に結びつける。	① 評価方法：平常点（課題への取り組み等）及び発表 ② 割合：平常点30％（課題への取り組み等）、発表70％ 評価基準：全ての課題にきちんと取り組んでいることを最低基準とし、発表内容に応じて評価する。課題や発表についてのフィードバックは、授業中に個別に口頭で行う。	◎	△	○	○
<日本語科目>	日本語ⅡD	日本語の文章作成力を養成し、発表に結びつける。	① 評価方法：平常点（課題への取り組み等）及び発表 ② 割合：平常点30％（課題への取り組み等）、発表70％ 評価基準：全ての課題にきちんと取り組んでいることを最低基準とし、発表内容に応じて評価する。課題や発表についてのフィードバックは、授業中に個別に口頭で行う。	◎	△	○	○
<日本語科目>	日本語ⅢA	日本後の読解力を養成する。	① 評価方法：平常点（課題への取り組み等）及び確認テスト ② 割合：平常点30％（課題への取り組み等）、確認テスト70％ ③ 評価基準：全ての課題にきちんと取り組んでいることを最低基準とし、試験内容の理解度に応じて評価する。 課題や確認テストについてのフィードバックは、授業中に個別に口頭で行う。	◎	△	○	○
<日本語科目>	日本語ⅢB	日本後の読解力を養成する。	① 評価方法：平常点（課題への取り組み等）及び確認テスト ② 割合：平常点30％（課題への取り組み等）、確認テスト70％ ③ 評価基準：全ての課題にきちんと取り組んでいることを最低基準とし、試験内容の理解度に応じて評価する。 課題や確認テストについてのフィードバックは、授業中に個別に口頭で行う。	◎	△	○	○

## 2023年度 カリキュラム・マップ【別科日本語専修過程】

### ディプロマ・ポリシー

- DP1: 日本の高等教育を受けるために必要な日本語運用能力
- DP2: 異文化を理解し、共感する能力
- DP3: 日本事情の概要をある程度把握し、適切な行動ができる能力
- DP4: 高等教育機関において主体的に学習を進める能力

分野系列	科目名	科目の目的・目標	アセスメント方法	科目に関連づくディプロマ・ポリシー			
				DP1	DP2	DP3	DP4
<日本語科目>	日本語III C	日本後の読解力を養成する。	① 評価方法：平常点（課題への取り組み等）及び筆記試験 ② 割合：平常点30%（課題への取り組み等）、筆記試験70% ③ 評価基準：全ての課題にきちんと取り組んでいることを最低基準とし、試験内容の理解度に応じて評価する。課題や試験についてのフィードバックは、授業中に個別に口頭で行う。	◎	△	○	○
<日本語科目>	日本語III D	日本後の読解力を養成する。	① 評価方法：平常点（課題への取り組み等）及び筆記試験 ② 割合：平常点30%（課題への取り組み等）、筆記試験70% ③ 評価基準：全ての課題にきちんと取り組んでいることを最低基準とし、試験内容の理解度に応じて評価する。課題や試験についてのフィードバックは、授業中に個別に口頭で行う。	◎	△	○	○
<日本語科目>	日本語IVA	日本語の語彙を増やし、運用力を養成する。	① 評価方法：平常点（課題への取り組み等）および小テスト ② 割合：平常点30%（課題への取り組み等）、小テスト70% ③ 評価基準：全ての課題にきちんと取り組んでいることを最低基準とし、試験に対する理解度に応じて評価する。課題や小テストについてのフィードバックは、授業中に個別に口頭で行う。	◎	△	○	○
<日本語科目>	日本語IVB	日本語の語彙を増やし、運用力を養成する。	① 評価方法：平常点（課題への取り組み等）および小テスト ② 割合：平常点30%（課題への取り組み等）、小テスト70% ③ 評価基準：全ての課題にきちんと取り組んでいることを最低基準とし、試験に対する理解度に応じて評価する。課題や小テストについてのフィードバックは、授業中に個別に口頭で行う。	◎	△	○	○
<日本語科目>	日本語IVC	日本語の語彙を増やし、運用力を養成する。	① 評価方法：平常点（課題への取り組み等）および小テスト ② 割合：平常点30%（課題への取り組み等）、小テスト70% ③ 評価基準：全ての課題にきちんと取り組んでいることを最低基準とし、試験に対する理解度に応じて評価する。課題や小テストについてのフィードバックは、授業中に個別に口頭で行う。	◎	△	○	○
<日本語科目>	日本語IVD	日本語の語彙を増やし、運用力を養成する。	① 評価方法：平常点（課題への取り組み等）および小テスト ② 割合：平常点30%（課題への取り組み等）、小テスト70% ③ 評価基準：全ての課題にきちんと取り組んでいることを最低基準とし、試験に対する理解度に応じて評価する。課題や小テストについてのフィードバックは、授業中に個別に口頭で行う。	◎	△	○	○

◎:最もよく身に付けることができる能力  
○:よく身に付けることができる能力  
△:身に付けることができる能力

## 2023年度 カリキュラム・マップ【別科日本語専修過程】

### ディプロマ・ポリシー

- DP1: 日本の高等教育を受けるために必要な日本語運用能力
- DP2: 異文化を理解し、共感する能力
- DP3: 日本事情の概要をある程度把握し、適切な行動ができる能力
- DP4: 高等教育機関において主体的に学習を進める能力

分野系列	科目名	科目の目的・目標	アセスメント方法	科目に関連づくディプロマ・ポリシー			
				DP1	DP2	DP3	DP4
<日本語科目>	日本語VA	日本語の聴解力を養成する。	① 評価方法：平常点（課題への取り組み等）および復習テスト ② 割合：平常点30%（課題への取り組み等）、復習テスト70% 評価基準：全ての課題にきちんと取り組んでいることを最低基準とし、テストに対する理解度に応じて評価する。課題や復習テストについてのフィードバックは、授業中に個別に口頭で行う。	◎	△	○	○
<日本語科目>	日本語VB	日本語の聴解力を養成する。	① 評価方法：平常点（課題への取り組み等）および復習テスト ② 割合：平常点30%（課題への取り組み等）、復習テスト70% 評価基準：全ての課題にきちんと取り組んでいることを最低基準とし、テストに対する理解度に応じて評価する。課題や復習テストについてのフィードバックは、授業中に個別に口頭で行う。	◎	△	○	○
<日本語科目>	日本語VC	日本語の聴解力を養成する。	① 評価方法：平常点（課題への取り組み等）および復習テスト ② 割合：平常点30%（課題への取り組み等）、復習テスト70% 評価基準：全ての課題にきちんと取り組んでいることを最低基準とし、試験に対する理解度に応じて評価する。課題や復習テストについてのフィードバックは、授業中に個別に口頭で行う。	◎	△	○	○
<日本語科目>	日本語VD	日本語の聴解力を養成する。	① 評価方法：平常点（課題への取り組み等）および復習テスト ② 割合：平常点30%（課題への取り組み等）、復習テスト70% 評価基準：全ての課題にきちんと取り組んでいることを最低基準とし、試験に対する理解度に応じて評価する。課題や復習テストについてのフィードバックは、授業中に個別に口頭で行う。	◎	△	○	○
<日本語科目>	日本語VIA	日本語の口頭表現力を養成する。	学習姿勢（30%）授業中の成果・提出物（70%）	◎	△	○	○
<日本語科目>	日本語VIB	日本語の口頭表現力を養成する。	学習姿勢（30%）授業中の成果・提出物（70%）	◎	△	○	○

◎:最もよく身に付けることができる能力  
○:よく身に付けることができる能力  
△:身に付けることができる能力

## 2023年度 カリキュラム・マップ【別科日本語専修過程】

### ディプロマ・ポリシー

- DP1: 日本の高等教育を受けるために必要な日本語運用能力
- DP2: 異文化を理解し、共感する能力
- DP3: 日本事情の概要をある程度把握し、適切な行動ができる能力
- DP4: 高等教育機関において主体的に学習を進める能力

分野系列	科目名	科目の目的・目標	アセスメント方法	科目に関連づくディプロマ・ポリシー			
				DP1	DP2	DP3	DP4
<日本語科目>	日本語 II E	特に日本語の語彙・文法と関連づけて、文章作成力を高める。	平常点・学習態度（30%）試験（70%）	◎	△	○	○
<日本語科目>	日本語 II F	特に日本語の語彙・文法と関連づけて、文章作成力を高める。	平常点・学習態度（30%）試験（70%）	◎	△	○	○
<日本事情科目>	日本事情A	日本文化に関わる基礎的な知識を習得する。	学習姿勢（まじめさや積極性、30%）授業中の成果・提出物（70%）	○	○	◎	○
<日本事情科目>	日本事情B	日本文化に関わる基礎的な知識を習得する。	学習姿勢（まじめさや積極性、30%）授業中の成果・提出物（70%）	○	○	◎	○

◎:最もよく身に付けることができる能力  
○:よく身に付けることができる能力  
△:身に付けることができる能力